

就任2年を 振り返り



浪江町長

吉田 教博

ご挨拶に先立ち、避難先でいまだ不自由な生活を強いられている皆さんに、改めてお見舞い申し上げます。

早いもので、町長という重責を拝命してから2年の月日が過ぎました。これまで大過なく執り行うことができたのも、多くの皆さんの支えによるものと心から感謝いたします。

これまで、町民の皆さんの生活環境を整えることを最優先に、取り組んでまいりました。そしてようやく、町の産業や経済の基盤が整い始めたと感じています。

中でも請戸漁港での競りの再開は、非常にうれしいことでした。漁港が再び活気づけば、町全体が元気になります。現在、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大防止対策による影響で経済の停滞が続いていますが、これまで地道に試験操業を行い、再興への努力を続けてきた漁業関係者の皆さんに改めて感謝と敬意を表します。

また、3月に開所した世界最大級の水素製造拠点（福島水素エネルギー研究フィールド）は、将来にわたり交流人口の増加や、水素関連企業の進出など、町の経済発展の起爆剤になるものと期待しています。さらに地場産業の再興のため、引き続き、乾燥調製貯蔵施設（カントリーエレベーター）をはじめとした営農再開支援事業や、泉田川ふ化施設の再開準備などに力を入れていきます。

8月1日、いよいよ「道の駅なみえ」がオープンします。今回は、一部施設のみとなりますが、令和3年1月にグランドオープンを予定している「地場産品販売施設」では、大堀相馬焼の器で地酒を飲んだり、浪江産の海産物や農産物を食べたりすることができます。これらの施設は、訪れた皆さんが「浪江の暮らし」を体験し、町を知ってもらう場としてだけでなく、町民の皆さんの交流を深める憩いの場として、周辺地域ににぎわいをもたらす「復興のシンボル」です。

多くの課題を乗り越え、ようやくここまでまいりましたが、これから特に力を入れるべき政策は、将来にわたり安心して生活できる魅力的な町を創造する「持続可能なまちづくり」です。居住人口を増やし、産業の活性化を図るとともに、「町の顔、である浪江駅前などの中心市街地を再生してにぎわいを取り戻したいと考えています。ようやく国から事業承認が得られたので、今後、具体的な整備計画を策定していきます。

一方、昨年度から特定復興再生拠点の除染が始まりましたが、拠点外の区域については、いまだ国からの明確な方針が示されていません。引き続き、町内全域の避難指示解除を目指し、国への働きかけを続けてまいります。さらに、医療や介護の充実、住宅や公共交通の整備、町と皆さんとの絆を維持する取組など、最優先に取り組むべき課題は山積していますが、「やまない雨はない、明けない夜はない」という気持ちで、これからも全力で町づくりを進めていきますので、どうか皆さんも町に帰ることを諦めないでください。

末筆となりますが、これまでの「新型コロナウイルス感染症」の拡大防止に向けた皆さんの協力に感謝いたします。不自由な避難生活の上に、さらなるご苦勞をお掛けしますが、引き続き「第二波」に備え、「新しい生活様式」へのご協力をお願いいたします。

皆さんのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和2年8月吉日